

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!

潮騒農園産コシヒカリ

ひこ まい

彦米 大豊作!

2013

10

潮騒 8 周年フォーラムに 足をお運びください

施設最大のイベント、公開フォーラムまで1カ月を切りました。潮騒では農産物の収穫作業や、地元開催の秋季イベントへの参加などで忙しい日々ですが、今年は潮騒8周年フォーラムに花を添えようと仲間たちがエイサー（琉球太鼓）の練習に励んでいます。練習スタートが9月初めなので、一曲だけでも形にできたらと考えています。そんな状況を見兼ねて、フォーラム当日には首都圏で活動するダルクの仲間たちがエイサー演舞の助っ人に来てくれます。どんな舞台が実現するか、今から楽しみです。

今年のフォーラムの目玉は、異色のゲストスピーカーの登場です。既報の通り元ヤクザの経歴をもつキリスト教牧師、進藤龍也さんが潮騒の活動に深い理解を示し、特別講演を引き受けてくれます。進藤さんはテレビや新聞などで取り上げられ、著作も多く、聴衆を引き付ける講演には定評があります。進藤さんも過去の私と同じように、裏社会で目いっぱい虚勢を張って生きてきました。時代は異なりますが、奇しくも私とほぼ同じ活動エリアで「悪さ」をし、同じように覚醒剤とアルコールに溺れ、ヤクザ社会からも見放された過去があります。

進藤さんは刑務所で服役中に聖書に触れて神の啓示を受け、依存症も克服されました。出所後キリスト教の洗礼を受け、さらに神学校で学んで伝道牧師の道に進みました。現在は川口市にある母親の経営していたスナックを教会にして福音を伝えています。刑務所伝道にも熱心に取り組み、行き場のない依存症の出所者らを教会に宿泊まりさせ、更生や就労を支援しています。キリスト教の信仰を持たない私ですが、これまで2度お話をうかがう機会を得て、潮騒の目指す方向性について示唆を受けました。立ち位置こそ違え、私と進藤さんにはとても共通項が多く、親しみを覚えています。

ところで、ダルクや潮騒では霊的としか言いようのない内面の劇的変化を体験して回復していく訳ですが、その要は「自分の信じる神（ハイヤーパワー）」に身を委ねることができるか、です。これは人が宗教を信じる構造と何ら変わるものではないと私は考えています。基本的な回復の構造は仏教でいう「他力」を受け入れるかどうかで、ただ日本人の場合は歴史的に「八百万の神」が皮膚感覚として染みついているので、「自分の信じる神」という懐の広さが親しみやすいのかもしれません。今回のフォーラムではキリスト教牧師の進藤さんから「信仰と（依存症の）回復」などについて深いお話が聞けそうです。どうか皆さん、潮騒8周年フォーラムに足をお運びください。（施設長 栗原 豊）

栗原施設長 × 進藤牧師 対談

／夜には礼拝式でスピーチ／



潮騒ジョブトレーニングセンター 8 周年フォーラムを前に、当日ゲストスピーカーとして講師を務めていただく進藤龍也牧師と栗原豊施設長との対談が10月3日、埼玉県川口市の「罪人の友 主イエス・キリスト教会」で行われました。

進藤牧師と栗原施設長は、かつて埼玉県内で暴力団員として活動してきた過去を含め、アルコール・薬物依存症だったこと、更生して第二の人生を生き直しているなど共通点があり、対談では依存症からの回復、回復のポイントである霊性（霊的な目覚めと成長）をどう考えるか、など多岐にわたって行われ、約2時間に及ぶ濃密で有意義な体験を共有できました。

同日午後7時には、東京都千代田区の御茶ノ水クリスチャンセンターで開催された「罪人の友・ザアカイの家」礼拝式に栗原施設長が出席し、参加者に向けてスピーチを行いました。

栗原施設長は「60歳まで身勝手な生き方をしてきました」と過去の生き方を振り返った上で、現在は薬物に支配された生き方から解放されていることなどを話し「60（歳）からでも回復ができる」と、1人でも多くの依存症者の回復を手助けしたい意気込みを示しました。

進藤牧師は潮騒が掲げる就労支援活動のテーマである「生活保護受給者から納税者へ」の目標を高く評価し、「納税して初めて『自分は本当の意味で、社会に復帰したんだな』と思いました」と、社会人として復帰することの大切さを説きました。

進藤牧師と栗原施設長との対談は、後日冊子として発行される予定です。潮騒フォーラムでも頒布（制作費がかかるので有料となります）する計画です。（B5版 約30ページ 500円 / 1部（予定））

汝の道を行け！
そして
人々の語るにまかせよ

埼玉県川口市の「罪人の友 主イエス・キリスト教会」▶



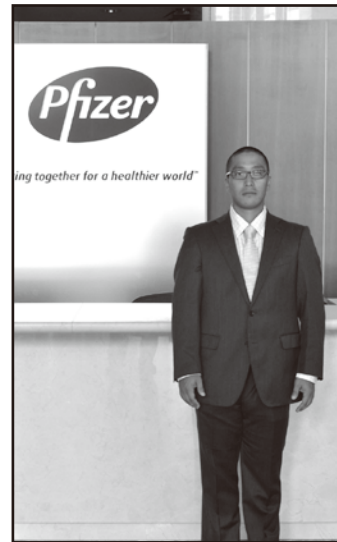
ファイザープログラム

継続助成選考委員会 プレゼンテーション

潮騒農業の実績と可能性を訴える

現在、潮騒 JTC が取り組んでいる潮騒ファイザープロジェクトの助成団体を選ぶ「ファイザープログラム 2013 年度継続助成選考委員会」が9月21日、東京都渋谷区のファイザー製薬本社であり、農業プロジェクトのリーダーを務めるヒトシさんが、次年度の継続助成を訴えるプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションは非公開で行われ、大学教授らの選考委員を前にヒトシさんがやや緊張しながらも、これまで取り組んできた農業をはじめとした就労・自立支援の意欲的な取り組みを、パワーポイントを使って説明しました。約10分間のプレゼンテーションが無事終了した後、選考委員から農作物の販売ルートに関する助言や、潮騒の農業プロジェクト活動に関する様々な角度からの質問が寄せられました。選考結果は年内（例年12月初旬ごろ）には発表される予定です。（サッキー）



▲ 継続助成を訴えるプレゼンテーションに臨む前のヒトシさん
東京都渋谷区代々木のファイザー製薬本社

潮騒水田で稲刈り、昨年にくく豊作実現

ヒコさんら農業自然隊の苦労報われる



▲ 稲刈りに励むリーダーのヒコさん

潮騒 JTC が運営する鹿嶋市内3カ所の水田で9月19日、稲刈りが行われました。このうち、同市猿田地区の水田（通称・猿田田んぼ）では、農業公社から借りた大型のコンバインが稲を刈り取っていきましたが、コンバインで刈り取れない部分などは昔ながらの鎌を使って刈り取りをしました。

米作りの中心となったヒコさんによると「去年と同じ量が採れた。今年は70俵ほど」（1俵＝約60kg）とのこと。5月に田植えしてから実った田んぼを見た仲間の1人は「150日の結晶だよ」と感慨深くつぶやきました。昔から「米」と言う字は『八十八』と書く。88もの農業の苦労が詰まっているので粗末にするな」と言われますが、まさに農業自然隊の“苦労の結晶”と言える「潮騒の米」です。

なお、収穫の際に出た稲ワラは、コンバインで細かく碎いて田んぼの肥やしとして利用し、長い状態のワラは乾燥させてから潮騒青塚農場の格納庫に入れて保管し、畑で利用するなど、有効活用します。（崎）

2013年度就労支援地域ネットワーク会議開催

当事者らが農業体験を発表

潮騒 JTC の2013年度就労支援地域ネットワーク会議が10月4日開催され、関係者らが集まっての意見交換が行われました。現在取り組んでいる潮騒ファイザープロジェクトの説明や潮騒農業の取り組みを紹介した後、実際に農業に参加している仲間たちの体験が発表されました。

覚せい剤の依存症のユウさん（38）は、20歳から約15年間覚せい剤を使い続けてきましたが、潮騒に来て約3年近く経ちます。潮騒入寮1年目は「やる気も起きず、働く気も起きなかった。普通の人から見れば当たり前前が課題」でしたが、家屋解体や農業を通じて「薬物を使っていない状態で体を動かすことが回復につながる」と確信。「自分が動ける場所が与えられていることに感謝している。こういう場が無ければ回復が無いと思っている」と語りました。また、再使用した件に触れ「再使用した経験がある。それでも『回復したい』という気持ちは強い」と述べた上で「ヒコさんのようになりたい」と、農業自然隊で米作りの中心として活動しているヒコさんを目標に回復への意欲を示しました。

アルコール依存症のヒコさんは、現在では潮騒農業隊の中心メンバーの1人で、特に米作りでは欠かせない存在です。「私の実家は米農家。私は小さい時から米作りをしてきた」と紹介し、潮騒でこれまで取り組んできた稲作について話しました。今年の出来栄えについては「作物は天候によって左右される。今年は作付面積を倍増した」と発表し「私としては大変喜んでいる。もう少し田んぼを増やさないといけない」と、稲作への強い意気込みを見せました。

栗原豊施設長は、潮騒が掲げる“依存症者の社会復帰と就労支援活動”について「支援者のお陰でダルクへの入口は整ってきたが、肝心の出口が見えない。そのためダルク内での滞留化が加速している。潮騒では就労問題に独自に光を与えることで、この難局を突破したい」と背景に触れ、「ファイザー社や周囲の支援で潮騒が目指す就労支援の方向性が見えてきた。改めて、大変難しいことに取り組んでいることに気がされた」と述べました。その上で「一つの形ができつつある」と進行中のプロジェクトを評価し、「農業で生活できる人をつくるのが JTC が求められることかなと思う。いろんな形での協力をお願いしたい。依存症者は一生治らない病気を抱えながら、社会に溶け込んでいく。それを支えて欲しい」と参加者に訴えました。

参加者からは「（農作業の参加メンバー）一人ひとりに責任を持たせる形のほうがいいのでは」「（農業を）教える人ももっともっと勉強しないといけない」「社会にまだ（依存症者への）偏見がある」「出来ることを一生懸命やって、（社会からの）信頼が得られるのかなと思う」「地域での啓蒙活動をしていきたい」などの意見が出されました。（崎）



▲ 潮騒猿田田んぼでの稲刈り



▲ 2013年度就労支援地域ネットワーク会議の様子
（鹿嶋市宮中の潮騒ダイケア会議室）

今月の イベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

第4回リカバリーパレードに参加

今年は雨にたたられず都心を行進

心の病、依存症、生きづらさなどを抱える当事者たちが回復した姿を見せてアピールする「第4回リカバリーパレード」が9月23日、東京都新宿区で行われ、潮騒JTCからの参加メンバーも含め、約400人が参加しました。昨年は雨天の中のパレードでしたが、今年は辛うじて雨が降らない曇天の中でのパレードとなりました。

館山ダルクのエイサー隊と市民有志のベリータンダンス隊を先頭に、断酒会会員や潮騒JTCメンバーなどが新宿中央公園を出発し、新宿駅南口付近や日本屈指の歓楽街「歌舞伎町」に面した通りを歩きました。参加者の中には「アルコール依存症は回復できます」「あなたの周りにも、こころの風邪をひいた人がいます」などのプラカードを持って、沿道の市民に依存症者への偏見を取り除くよう訴えていました。

このうち、神奈川県で「松田で楽しくステップを

ふむ会」に参加している、神奈川県小田原市の笹井健次さん(50)は「自分が依存症に対する無知、偏見があったおかげで、なかなか病院に行けなかった。苦しい期間が続いたけど、無知や偏見を社会のみなさんが取り除いていただければ」と語りました。

潮騒JTCの栗原豊施設長は「依存症者がこんなにいるとは思わなかった。楽しいと言えば楽しい」とした上で「断酒会の人とか、(依存症者の)大きなくくりの中で、回復ということをアピールできたのかなと思う」と感想を述べました。

また、潮騒のカツミさんは「スピーカーで『回復している仲間』と言ってた人と、クリーンタイムに自信を持って歩けたし、楽しく歩けました」と満足そうでした。(サッキー)



なお、主催者によりますと、この日は広島市や北九州市でもリカバリーパレードが行われた、とのこと。また、東京でのリカバリーパレードは9月23日のテレビ東京の夕方のニュースで放送された他、9月26日付読売新聞夕刊「こころ・健康のページ」でも紹介されました。

「ハームリダクション」について 理解を深めました

ダルク次世代スタッフ研修会に参加して

10月2、3日に都内で「ダルク次世代スタッフ研修会」(主催・日本ダルクなど)があり、スタッフを代表して参加してきました。今回もハームリダクション(害を減らす)について勉強させて頂き、自分はとてもいい考えだと思います。当事者として「薬物使用は犯罪」との考えには限界を感じるからです。罰を加えて更生できるなら、薬物事犯はみんな良くなっているはずです(笑)。

実際は再犯につながっている—これが偽らざる現実です。依存薬物のケア先進国では、建前を捨てて本音でこの問題に向き合い、より現実的な対応策を打ち出しています。それが米国のドラッグコート(薬物事犯専門裁判所)であり、欧州のハームリダクションです。自分の理解では、違法な薬物を使ってしまった人に本人はもとより周囲や他人への害が及ばないための措置を講じることで、現実的な社会防衛につなげるという発想に思えます。

ダルクのように「ダメ。ゼッタイ。」運動の一線を踏み越えてしまった人はどうすれば救われるのか。その人たちのためにも何ができるかを本音で考えていかないと、いつまでも自己満足の国民運動を超えられないと思います。エイズ予防にはコンドーム使用が現実的な対策のように、薬物を使用してしまった人には新品の注射針を配ることで、C型型肝炎予防になります。当事者の私には理解できませんが、日本でこの考え方を受け入れて

もらうのは難しいだろうと思います。でも難しいから何もしないでは、先に進みません。自分はハームリダクションの考え方を、一人でも多くの人に知ってもらいたいです。(マコト)

【ハームリダクション】クルマが道路を走る以上、交通事故は起こる。では交通事故を防ぐにはどうすればいいか。極論を言えば世の中からクルマをなくすことだが、それは非現実的。むしろ利便性の現実を受け止めてドライバーや同乗者、歩行者に及ぶ危害を少しでも減らそう—このように「害悪(被害)の低減化」概念がハームリダクションだ。依存症者も簡単には薬物使用をやめられない。外的強制力も無力だし、法的規制だけでは依存症はなくなる。ならば当事者の安全性を向上させ、死亡やエイズ感染などの有害化を少しでも低下させたい。こうした現実的なハームリダクション政策は、薬物使用を認めることと誤解されやすい。「ヤク中に安全な薬物使用環境を与えるなんてありえない」との批判や反発は必至だろう。だが、欧州の一部ではエイズの感染リスクが確実に下がる成果を挙げている。(勝)



こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

千葉菜の花家族会に参加して

秋が深まる10月9日、千葉市にある千葉市勤労市民プラザで開かれた「千葉菜の花家族会」に女性メンバーらで参加しました。潮騒に入寮している女性の回復体験を聞きたいという同家族会の要請に応えたもので、女性の仲間たちがメッセージに立ちました。

仲間の体験談を聞き、私も今日に至るまで自身身の勝手さを痛感させられました。子を思う親心は計り知れませんが、今までアルコールに支配されていた自分を重ね合わせながら、改めて両親には申し訳ない思いでいっぱいです。感謝の気持ちを新たにしました。これからはアルコールから解放されて自由になり、自分の人生にきちんと向き合っていきます。（レイコ）

山梨ダルクフォーラムに参加して

再び潮騒JTCに戻ってきってから、早くも7カ月が過ぎました。9月26日には山梨ダルク5周年記念フォーラムに参加して、自分にとって良い経験になりました。会場に着いた途端にエイサーの太鼓演奏が始まって驚きましたが、自分も太鼓の練習をしている身なので真剣になって見ました。

まだ練習を始めて2カ月なのですが、覚えが悪く苦労しています。太鼓の重さと激しい動きに練習はとても疲れますが、仲間との新たな絆が生まれています。楽しいと感じながら練習できているので、エイサーの取り組みはずっと続けたいと思っています。それと潮騒の8周年フォーラムの時に自分も叩くのですが、今のところは上手く叩けるのか不安でいっぱいです。でも楽しく出来ればいいんじゃないかとも思っています。

山梨ダルクフォーラムでは、日本ダルクの近藤恒夫さんの話に興味を持ちました。これからダルクは地域社会とどのように向き合っていけたらいいのか、という話で、上に立つリーダーの大変さを知ることができました。ほかにも自分のスポンサーと会うことができ、今回のフォーラム参加は自分の回復の糧になりました。今後もマイペースで、回復に向け精進していきたいと思います。（エソ）

千葉の自助グループメンバーが 貴重なメッセージ

地域の自助グループメンバーが体験メッセージを送る「潮騒アディクションセミナー」が9月29日、鹿嶋市宮中のデイケア施設で開かれ、入寮者の皆さんが熱心に耳を傾けていました。

この取り組みは、アルコール依存症の優れた回復者で、潮騒JTC支援者でもある恵一朗さんの尽力で数カ月に1度開催しているものです。今回も主に千葉県内のアルコールや薬物、ギャンブル依存症の自助グループに参加する仲間たちが、本音で体験を語ってくれました。

とりわけパチンコ依存症の女性のメッセージは、依存症の根本に生育環境や孤独感など複雑な背景があることをうかがわせていました。この女性によってギャンブル依存症に陥ったご主人もメッセージに立ち、夫婦で依存症の困難に向き合っていることを忌憚なく語ってくれました。

恵一朗さんは「依存症は自分が絶対だと考える点で共通している。人の言うことを聞かない病気だが、ステップをやることで確実に聞く耳を持てるようになる。そうして仲間の力を借りて回復できるし、生きていける。潮騒メッセージは、みんなの前で正直に自分を吐きだせる貴重な場」と意義を強調してくれました。（勝）

近藤恒夫氏 インタビュー Vol.18

回復者がダルクを支える構造は 妄想？ だった

●自分でもミスマッチだった反省している

―もはやダルクは生活保護を当てにしないと成り立ちませんか？ 最近は「生保依存」が加速していますね。「生保には頼らないぞ」という自立志向が弱くなっているように感じます。

近藤 実を言うと、ダルクをやってきただけ後悔していることがあるんだ。ちょっと計算違いだったかな、とね。自分でもミスマッチだったなと反省しているんだが、それはダルクのスタッフになる以外に道はない、という人たちだけじゃダルクは困るわけで、ダルク以外でもうちょっと社会貢献できたらというか、いずれは外側からダルクを支える人たちが現れることを当初は思い描いていたんだ。

本来から言えば、ダルクを反面教師にして、もっと社会に力強く羽ばたいていく人たちが出て来てもいいはずなんだ。いずれはそういう人たちがダルクを下支えしていこうという漠然とした希望というか、将来ビジョンだね。そういう回復者をイメージしていた部分もあったんだよ。そういう人材を生み出せるかもしれないという期待を持っていたんだ。

―ダルクの回復者が新たな依存症者を助ける「命のリレー」ですね。

近藤 箸にも棒にも掛からなかったのがダルクで回復させてもらったから、今度は俺達が社会に出て働いて、外で稼いで外側からダルクを支えていくという仕組みになっていったらいいな、っていう夢があった。結局は妄想だったのかな（笑）。たとえ妄想だったとしても、少しでもそうなれば、国家なんか当てにしないでいいのかもしれない。今のうちに「右に倣え」で国になびくようなダルクばかりの流れにはならなかっただろうな。

あと2年で30年になるダルク支えてきたっていう

のは、ダルクを卒業したやつじゃないんだ。実際の施設運営では国の福祉制度（入寮者の個々が受給する生活保護など）頼りなのが現状でしょう。そして外側から家族によって支えられている。生保と家族頼りだよ。これが唯一、心残りというかな。

●スタッフになれるような人材は自立すべき

―生活保護頼りはどこのダルクにも共通した課題で、正に両刃の剣ですね。

近藤 つまりダルクのスタッフも含めて自分たちで稼いでいく。そうして生み出した生活の糧の一部を次に循環させていく。自分たちが自分たちの体験をもとにして、次にダルクにつながる人たちを手助けするのならダルクが自立できる。そのためにはスタッフになれるような人材は、ある時期からダルクから離れて、ダルクに自分の稼いだ金をぶち込む。そのくらいの度量というか気持ちがないと、スタッフなんか辞めたほうがいいと僕は思うんだ。

これは初めて言うことだけれども、ダルクから給料をもらうという考え方がな、それはどこかで方向転換すべきなんじゃないか。例えば慶応大学がそうじゃないですか。慶応は入学者の家庭は金持ちばかりでしょう。でも慶応の先生というのは、一番給料が私学の中で安いんだよ。なんたって福沢諭吉の持論だからね。僕は福沢諭吉のあれを読んだわけではないけど。“志は高く暮らしは低く”っていう考え方。つまり、それが本物のサーバントリーダーってことだろう。

でも、ダルクにいる人たちはそれを誤解している。みんなダルクに助けられたと、つまりは無料で助けられたと思っている。ところが、無料じゃなかったんだよ。有料で助けられている。親や国家、福祉の窓口、刑務所や保護観察所、精神科病院かもしれない。いろんな社会資源に助けられているわけだ。（次号に続く）

受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渴望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通していますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。

仲間になれる日を楽しみに 残刑生活を送っています

前略。季節が移りゆくのは早いもので、もう秋になりました。みんな日頃のうっぶんを晴らすがごとく大声を上げ、子供のようにはしゃいでおりました。私は残念ながら職員ともめて独居におりましたので参加はできませんでしたが、みんなの声が独居まで届いており、私も参加したくとても残念な思いをしました。結局、懲罰も何もなく元の工場に帰ることができました。満期まであと1年、刑期を増やすことがないように過ごすことを第一に考え、残りの刑期を過ごしていきたいと考えています。

また、潮騒通信を送っていただきありがとうございます。潮騒通信を読み、皆様が今どういった活動をしているか、皆様が元気で活躍している姿を見て私も元気をもらっています。刑務所にいても私は一人じゃないんだと実感することができ、回復するんだという強い力がみなぎってるのを感じてます。自分自身どうすればよいか、よく考えて皆様の仲間になれる日を楽しみに、残りの受刑生活を送っていきます。こんな私ですが宜しくお願い致します。草々。

（秋田県 S・M）

栗原さんに書く手紙は 今月で最後になります

季節の変わり目で体調も崩しがちになっていると思いますが、体だけは気を付けてください。栗原さんに書く手紙は今月で最後になります。9月の初めごろに自分にとって嬉しいことがありました。その内容も含み10月の手紙で報告したいと思います。大変申し訳ありませんが、潮騒通信9月号を送って下さい。それではまた来月手紙を書きたいと思います。

（神奈川県 K・M）

どんなことにも耐えていこうと 心に固く誓う

私は以前より申し上げていた通り、今回が最後のチャンスだと思っています。過去に何度となく薬と縁を切ろうと思い、またその努力もしたことがありました。ただどうしても一人では無理だったのです。今回縁あって潮騒ジョブトレーニングセンターにお世話になろうと決めたのは、二度と同じ過ちを繰り返さないために、と私自身が心に決めたことなのです。それは一人ではどんなに頑張ってみても、薬物依存症から脱け出すことはできないという事が良く分かったからであります。

今回このチャンスを逃すともう二度とこの病气から立ち直ることはできないと思います。ですから、どんなことにも耐えていこうと心に固く誓いました。

季節の変わり目です。お体をご自愛され、ますますのご活躍を心より願っております。最後になりましたが、代筆をされている方にくれぐれも宜しくお伝えください。また近いうちに便りをします。

（北海道 H・S）

出所してからどう生きていくかを 考えている

前略。やっと過ごしやすい季節になりました。またもや保護観察所から、仮釈(放)に関係なく1年間のプログラムを受けるつもりはあるか」という用紙が入り、もちろん仮釈に関係なく受けるつもりはあると返事を書いて提出しました。

最近、自分自身はもう満期出所でも良いと思っています。別に慌てて出所する事を考えてるのではなく、「出所してからどう生きていくか」を考えるようになり、毎日を過ごしております。栗原さんが、いつも言ってくれた満期でも引き受けてくれるという言葉が、つくづくありがたいと思っています。乱筆乱文にて失礼します。草々。

（愛知県 N・K）

出所後は潮騒で回復プログラムを受けたい

前略。栗原さんはじめ潮騒の皆さんお元気でお過ごしのこととおもいます。私も工場に復帰して2カ月が過ぎましたが、元気で頑張っておりますのでどうかご安心ください。作業は以前と同じ水引きを作っていますが、近いうちに副班長の任に就く事になっております。満期まで5カ月を切り、工場で過ごすのはあと4カ月半くらいですが、お世話になった工場に少しでも恩返しをして出所したいと思っています。

先日、保護観察所の方から栗原さんの引受が再度許可

今の工場で刑務作業を頑張っ て務めています

先日、送っていただいた潮騒通信がやっと私の手元に届きました。毎回楽しみにしているので本当にうれしいと共にありがとうございます。それとスタッフのKさんからの手紙が届きました。重ね重ねありがとうございます。前回の手紙で質問したことの内容を教えてもらい、よく理解できました。

この前、身元引き受けの件で保護会申請を提出しました。ダメもとで提出してみたのですが、私の犯罪が犯罪なだけに難しいとは思っているのですが…。潮騒ジョブトレーニングセンターでの教育を受けるのに地域的な理由と、一日も早い社会復帰をして被害者弁償をしたいと記載しましたので、もし何か問い合わせがあった時はよろしく願いいたします。面識も何もない私ですが、申し訳ありません。

通信の中に潮騒農業メンバー達に報奨金が支払われた記事が載ってましたが、私も読ませて頂き、少し感動しました。それで私自身思ったことを記します。

①とにかく何かを始める。②一歩踏み出すという事が大事。③張って生きていれば、それがその人の人生の証になる。④何か精いっぱい打ち込めるものがあれば頑張れる。⑤そうすれば、いつか必ずいい日があるーそんな感想を抱きました。

私も今の刑務作業を頑張っ
て務めています。いいことが現れることを夢見て、です。今、私のいる工場は、さほどこれと言って大きな問題は表立ってないと思っています。隣の工場では以前から燻っていた件でケンカが続発的に起こり大変なようです。ケンカの中には私の知人である者も交じっているようなので少々心

になった旨の告知を受けました。まあ自分の場合は残刑もないし事件送致の件もあるので、もう今は仮釈でも満期でも出所後は栗原さんの元で依存症からの回復プログラムを受け、必ず完了した後に真の意味での社会復帰を果たしたいと思っています。

それではまた来月お便り致します。季節の変わりめですので身体には十分に気を付けて日々お過ごしください。乱筆乱文にて失礼致します。草々。

（北海道 Y・K）

配はしているのですが、ちょっとした事の原因がほとんどなのですがね。なんやかんやと刑務所内も大変です。娑婆も大変でしょうけど、それに比べれば刑務所はなんとかなるんですけどね。

もっとも私の大変より、外にいる家族はもっと大変だと思っているので、私も頑張らねばと心に誓い務めています。世間では五輪の話で賑やかでしょうね。私たち受刑者は限られた新聞、ある程度のテレビ視聴でしか世の中の中の動きはわからないけど結構、五輪の事は伝わってきますから世間ではすごく盛り上がっているのでしょうね。7年後が楽しみです。私が元気でいられれば良いのですがね。関東の方では五輪に伴い、景気も良くなるでしょうね。色々楽しみなことが起こることを期待しています。

私はスポーツが大好きで自分でも色々行っていましたから…。でも、今は年齢とともに観戦に転じてますがね。大相撲やプロ野球も色々楽しませてくれますから、私は大満足です。懲役を務めていると、このようになるのかなあ。やっぱり自由が一番ですね。そうそう前回も記しましたが、運動会が無くなり2種目の競技だけとなったのは仕方ないと諦めてましたが、工事の関係だと記しましたよね。その工事の内容が新しい工場を建てる為の仮設の工場を建てるとのこと。そうなると運動場の敷地が空くのは何年先のことやら。 過ごしやすくなりましたが、季節の変わり目なので私は、少々風邪をひいてしまいました。栗原さんも気を付けてください。

（愛知県 S・S）

しおさい 俳壇

9月のお題

赤とんぼ

ケイコ

夕焼けに二人で見つけ赤とんぼ

特選句

蜻蛉は塩辛蜻蛉、鬼やんまなどいるが童謡にある様に赤蜻蛉が一番秋の風物詩に合う、まして夕焼けの利根堤などで二人で見つける赤んぼは少しの哀愁を込めてロマンを思う句です。

キコ

赤とんぼ嵐の日には何処にぬむ

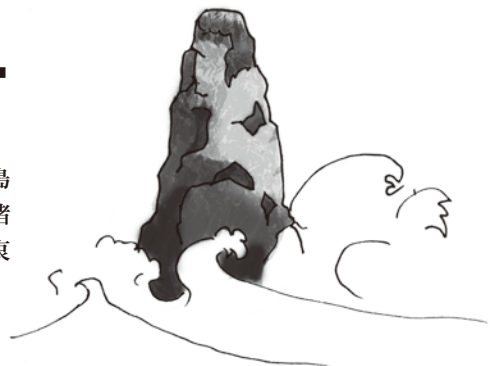
特選句

地球温暖化の為か今年は洪水や極暑台風も多い、そんな日はか弱い蜻蛉などは何処に隠れ棲むのか、如何にも女性らしい優しい詠です。思えば、人も動物も虫も億年の昔から存えて今日があります、一日一日を大事に生きたいものです。哀憐の句でもあります。

施設長の旅の句

筆島の細るばかりや野分余波 ユタカ

筆島は伊豆大島の波浮港の北東海岸沖に立つ高さ三十メートル程の筆に似た島で、昔の火山岩の名残り。何万を経た今は筆の様な奇岩とこの辺りは東京都渚百選にもなり観光客が訪れる。野分の余波でまた細る思いがする、自然への哀憐の俳諧の句です。



今月の秀逸句

秀逸句

幼な日のこの指止まれ赤とんぼ
コ バ

蜻蛉は人なつこくて肩や頭に止まる、子供の頃はこの指止まれと声に出して呼んだものだ、懐かしい里を偲ぶ句です。

赤とんぼ夕焼け小焼け歌うかな
コ ジ

原句を「歌うかな」に変えて句の作者自身の思いにしましたが、この方が赤蜻蛉を見てつい口ずさむ自身の句になります。赤蜻蛉には故郷や父母を偲ぶ切たる詩情があります。

浦風に淋しく飛べる赤とんぼ
ワンダー

赤や青黄の色彩にも心を動かすのが人間だが、赤蜻蛉の色にも里や父母を思う懐かしさを感じる、この北浦の風に舞う赤蜻蛉にも寂しさ懐かしさがある。しみじみした句です。

その他の句

青空の飛行機思ふ赤とんぼ カツミ

幼子が赤とんぼ追ふ庭辺かな オノ

赤とんぼ網を片手に子らの声 ポチ

補虫網すりぬけ逃ぐる赤とんぼ ヒロ

赤とんぼ夕焼け空に飛んでぬる イルカ

赤とんぼ羽根を取ったら油虫 イチ

新米と味噌汁のみの朝餉かな
ユタカ

日本人は縄文時代から米を食べ、今ではコシヒカリや秋田こまちなど美味い米が改良されて、朝飯などは味噌汁だけで充分だ、戦後を思うと感慨一入でもある。今の贅沢を顧る句でもあります。

夕焼けの空にとけ入る赤蜻蛉
オ カ

赤蜻蛉の飛ぶ空は青にも白雲にもそれぞれ風情がありますが、夕焼け空にとけ入るのは又格別な趣きで、燃える火に入る様で美しいが、夕焼けも褪せて残る赤蜻蛉もまた衰れを込めて美しく思う句です。



何時までもまとわりつける赤蜻蛉 ？

北浦に季節を運ぶ赤とんぼ エゾ

赤蜻蛉すすきにゆれて美しき サユリ

心にも暑さやはらぐ赤とんぼ リリー

刈り了し田空に舞える蜻蛉かな カート

幼な日の蜻蛉追ひたる山や川 アベ

受刑者の句

初秋の夜具引き寄せる雨の音

(北海道 H・S)

今年は十月の半ばになっても真夏日を記録するほど暑いですが、それでも地方によっては確実に秋の気配がする。句の作者の帯広市は初秋を迎えそれに夜の雨に冷えを思う。「夜具引き寄せ」に実感と切哀の籠もった句です。

一刷けの秋雲空の澄み渡る

(北海道 H・S)

年中見る雲にも四季によって趣きがある。春の綿雲、夏の入道雲、冬の雪雲、そして秋の絹雲で、刷毛で描いた様でもある。澄んだ高空の雲は秋の思いを籠めて一抹の淋しさを詠んだ句です。

どっこい
私も生きてます

～我が回復記～

「依存症のサカです」No.7

“石の上にも三年”にはそれなりの意味がある

さすがに年の功です。栗原施設長は「自分の問題を途中で棚上げし、現実逃避の理由付けにしていないか?」と私の痛いところを突いてきました。「あちこちダルクを渡り歩くことで自分に合った施設にめぐり合うこともあるだろうが、逆に一期一会の言葉もある。ここでじっくりプログラムに取り組むのも大事なんじゃないか。“石の上にも三年”にはそれなりの意味がある」と、ダルクや潮騒で孤立しがちな私を守ってくれました。

だから私も施設を転々とする事より、あえて潮騒で一からやり直す決心を固めることができました。ともかくも後悔しか残らない3度のスリップで「どん底」を味わい、私はほとんど無力を認めました。相変わらず娘の死で神を信じることはなかなかできないのですが、どうか「お任せ」ができるようになりました。昨年12月29日のスリップを最後に、またクリーンタイムをなんとか積み重ねています。

今は、クスリ(覚醒剤)に対する欲求がさっぱり湧きません。いや、実際には目の前にモノを出されれば、やりたくなるのかも知れませんが。罰ゲームなのか試されているのか、とにかく欲求が起きないのが不思議なのです。その上、今こうして足かせ? のようにスタッフ研修をさせて頂き、栗原施設長には深く感謝しています。

本来なら追い出されても仕方ない私の潮騒 JTC での身勝手な行動と規則違反を、栗原施設長は宗教者を超えるような寛容な心で深く受け止めてくれたのです。ダルクの真骨頂が「アディクトには罰よりも治療と福祉を!」にあるとしても、世間でいう“仏の顔も三度まで”です。私は栗原施設長に自分のすべてを見透かされたように受け止めています。(続く)

10月のバースデイ



トリ

五十歳になりました



マサ

農業に励んでおります



カツミ

初の社会生活3年。薬物ナシの生き方で今があります



カッチャン

早くバクチがやりたい

イメージチェンジでさらにで読み易く ～読者からの感想

潮騒 JTC では、9 月号の潮騒通信から紙面の全面的なりニューアルに取り組んでいますが、潮騒の支援者で涸沼（茨城町と大洗町、銚田市の一部にまたがる汽水湖）のほとりに住む白田美鶴さんから、以下のような感想が寄せられました。長文なので当該部分を抜粋してご紹介します。

＊ ＊ ＊

「潮騒通信」9月号が届きました。通信冊子が一新し、新たな、そして大きなイメージチェンジとなりました。これまでのスタイルに慣れてしまった私にとっては、小学生が中学生になり、バージョンアップした成長した姿を見るような感覚です。メニューの流れはこれまでの流れですが、モノクロからカラーになったことは、かなりのバージョンアップでコストもかなりアップしたように思います。

私にとってよかったと思うことは、文字がさらに読み易くなったことでした。それは構成的デザインによって、文面やテーマを

分けたこともあるように思います。また、大きなニュース、近藤さんの第4回作田明賞受賞や「ビッグイシュー」日本版に掲載やエイサー開始などです。栗原さんの文が巻頭(表紙)が後頭?裏表紙となり、インパクトに影がさした感もありますが、その内容は考えさせられる内容で、潮騒通信のフロントであり、顔そのものであることに変わりはないと思います。

農作物は様々な条件によって不作にもなり、豊作にもなり、今年のサツマイモの収穫量が大きく減ったことは、いかにも残念なことでした。俳句は短詩で、日本人なら殆どの人がつくれて、そして四季折々に寄せる様々な思いを表現できる、最も優れた庶民の詩だと思ひます。コバさんは前回のフォーラムでは司会をやられ、とてもユーモア感覚ある方だと思ひましたが、ことばの才能も光るものがあります。ことばに、上手に、心を乗せることができる方のように思ひました。栗原さんの文と共に、近藤さん談話も興味深く毎回読んでいます…。(自由詩人、白田美鶴さんからの便りから)

10月の行事予定

- 24日 俳句会
- 27日 家族会
- 28日 誕生会
- 31日 秋元病院ソフトボール試合

11月の行事予定

- 2・3日 てーら祭
- 6日 船橋北病院ソフトボール試合
- 10日 鹿嶋祭り・秋元病院メッセージ
- 16日 秋元病院メッセージ
- 17日 潮騒フォーラム

編集後記

どうしたら読者の皆さんに支持され、より興味を持って読んでいただけるか、試行錯誤を続けています。これまでの紙面に慣れた方には抵抗感があるかもしれませんが。潮騒通信の「顔」だった施設長の巻頭言が2ページに移り、表紙を訴求力のあるフロント写真に変えました。ページごとに独立した記事の配置をテーマに沿った流れとし、できるだけ統一したスタイルに改めました。誤解を恐れずに言えば、福祉施設のニュースレターといえ(献金をもらうため?)アリバイ的な発行が多いように思います。個別の事情はあるでしょうが、様々なハンディを抱える潮騒 JTC は積極的に情報発信することで皆さんから信頼され、必要とされる施設でありたいと考えます。そのため経費は多少かさんでも表紙と背表紙をカラーにしました。レイアウトの変更で窮屈だった紙面にもゆとりを持たせました。たかが施設のニュースレターかもしれませんが、されど…です。家族から高級カメラ一式の献品がありました。当方の油断でカメラを盗まれて落ち込んでいたので、ありがたい限りです。機材に恥じないよう撮影の腕を磨きます。(市)

献金を頂いた方（10月15日現在）

- ・小岩井商事(株)小岩井重光様
- ・(有)住谷建築様 住谷道夫様
- ・カシマペットショップ様
- ・富井建夫様
- ・勝間春江様
- ・内堀高良様
- ・菜の花家族会様
- ・石井照明様

献品を頂いた方（10月15日現在）

- ・中村悟志様
- ・菜の花家族会様
- ・堀内 誠様
- ・中村勝也様
- ・北海道 DARC 様

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒 JTC は、
回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます!

Contents

P② 潮騒8周年フォーラムに足をお運びください

P③ 栗原施設長 × 進藤牧師対談

P④ ファイザープログラム
継続助成選考委員会 プレゼンテーション
潮騒水田で稲刈り、昨年に続く豊作実現
2013年度就労支援地域ネットワーク会議開催

P⑥ 今月のイベント参加報告
第4回リカバリーバレーに参加
「ハームリダクション」について理解を深めました
千葉菜の花家族会に参加して
山梨ダルクフォーラムに参加して
千葉の自助グループメンバーが貴重なメッセージ

P⑨ 近藤恒夫氏インタビュー
回復者がダルクを支える構造は妄想? だった

P⑩ 受刑者からの手紙

P⑫ おさかい俳壇

P⑭ どっこい私も生きてます! ～我が回復記～



■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/

今年も、
//大豊作//

おいしい。
😊



これ
ゼーんぶ
ひこ米です!!



あ、
カエル
発見



ベリーダンサー、
きれいだったな。
詳しくは PbへGo!!

あー
おはかすいた...



回復の
仲間集いて
パレードの
歩みに神の
導きありぬ